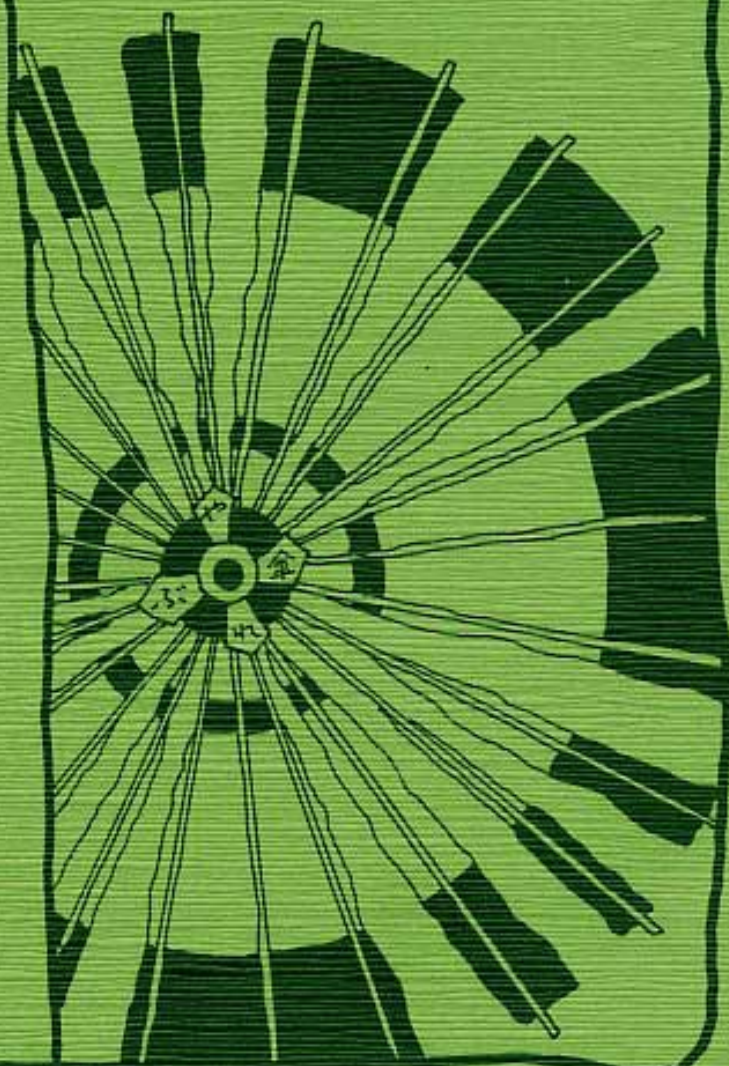


やぶれ傘



四十四号

二〇〇八年十月

岸壁に並ぶ纜杭 <small>ベット</small> や夏をはる	根橋宏次
みちのくの山彦となる威し銃	廣瀬雅男
つづれさせ雨思ひ切り降りしのち	藤井 美晴
大西日滑り台にも砂場にも	きくちきみえ
風鈴の短冊に肩触れにけり	瀬島酒望
雲海の底のどこかに今朝の宿	丑久保 勲
雨の夜の明けて弟切草 <small>おとぎりそう</small> の花	大島英昭
茄子の馬父のことはた母のこと	安藤久美子
枝折戸を開け白萩の庭に入る	國保八江
老鶯の住まふカルスト台地かな	渡邊孝彦
煙突に赤き「湯」の字や合歓の花	松村光典
焼き鮎 <small>あじ</small> にたで酢ほどける川床料理 <small>ゆか</small>	有賀昌子
芋の露硯の海へ流しけり	貫井照子
天城から太鼓の一座秋祭り	平岡かつを
開け放つ座敷干梅匂ひくる	松本善一

抄 集 句 選 夫 紀 傘 大 崎 ね ぶ や

花茗荷植ゑし覚えのなきところ	松本正生
御宿の月の沙漠に踊りけり	山岸甲一
わだつみの兄の墓標や雲の峰	秋葉貞子
サイレント映画の如き炎暑かな	浅嶋 肇
梅を干す午後には陰となる場所へ	天野美登里
夾竹桃お化け煙突ありし町	岩藤礼子
夏足袋の裏の真白き狂言師	奥田温子
雨だれはゆつくり土を打ち四葩	菊地葉子
遠雷や乾き切つたる道を行く	久世孝雄
手に残るべらのぬめりと潮の香と	忽那みさ子
夕映えのたゆたふ水面つくつくし	齋藤朋子
朝顔の苗夕風の吹くままに	佐藤静子
たぶの木の下影踏むや夏深し	白石正躬
捨て置きし鉢 <small>はち</small> に十葉咲きにけり	時田義勝
露店の灯消して祭りの果てにけり	都丸スミ代

子 鳥

大崎 紀夫

子鳥と思へぬこゑで鳴きにけり
金魚売り電球低く灯しゐる
蝸牛忌の雁坂峠雲かかり
夕づくや鬼灯市に水にほひ
炎天をくるエルメスの紙袋

かはたれの畦の木に鳴くつくつくし
雨雲の風吹き寄こす茄子の花
山背吹く十三の湊に宿りして
草いきれ磧かわらはしろく暮るるのみ
夕立のあと吹く風となりにけり
葛の花砂山こえてくる風に
雲の端の八月ひかる午後に入る

弟切草の花

大島英昭

濃紫陽花咲けるホームのはづれかな
梅雨茸にあるかなきかの日の斑かな
牛蛙日照雨止みしをころあひに
地に這ひて草引く無念無想かな
蓮池や真昼に閉づる土産売り
夏の虫どち地にうじやらうじやらかな
お稲荷の鈴凹みある大暑かな
たちまちに蚊のやつてくる祠かな
糸のころの没り日の中に透きとほる
雨の夜の明けて弟^{おとぎり}切^{そう}草の花

茄子の馬

安藤久美子

朝顔の苗に支柱の大胆な
藪蚊つれ庭の昼より戻りけり
川風の闇へ花火の続けざま
向日葵の迷路にひどの沈みけり
茄子の馬父のことはた母のこと
渡し場は蚊帳吊草のその先に
向日葵の花に種ある重さかな
風ふふむ糸のころ草のひと処
新涼を滝野川まで王子より
隧道を抜け来る風や葛の花

白萩の庭

国保八江

僧語る戊辰のいくさ夏座敷
観音の存す堂なり沙羅の花
祭笛に開け放たれし長屋門
民宿に涼しき土間のありにけり
拳あげ足蹴りあげて踊るかな
子の仕草思ひ出しては墓洗ふ
ささ濁る水面に影を秋の蝶
尾瀬をゆく露の木道軋ませて
枝折戸を開け白萩の庭に入る
雨雲の奥に稲妻野の蒼く

カルスト台地

渡邊孝彦

老鶯の住まふカルスト台地かな
民宿の朝餉に萩の瀬つき鯨
夏座敷家紋を彫りし釘隠し
すぢ雲や水辺に揺るる花はな慈なぐわ姑い
蚊取線香に火ともす口の風
小流れの澱みに映る雲の峰
しほとんぼ青粉で濁る池の面
八月やトランペットの校舎より
人差指逃れ飛蝗の大飛躍
川風の二子玉川駅に秋

合歡の花

松村光典

煙突に赤き「湯」の字や合歡の花
だんらりと猫のびてをり合歡の花
綿雲のゆつくりわたる大暑かな
金輪際動かぬ態や夏の猫
歩いてても歩いててもまだ夏の中
息子とは話はづまず夏の夜
草引けば狭き庭とぞ思ひしが
猫の来てむしりし草を詮索す
夏の日を慳涼しくそよぎけり
バスを待つ中野坂上初とんぼ

川床料理

有賀昌子

甚 平 着 て 甘 味 処 の 漢 かな
月 下 美 人 咲 き 初 む か を り 満 ち に け り
ト マ ト ス ー プ に 刻 み パ セ リ を 巴 里 祭
見 あ ぐ れ ば 四 方 に マ ン シ ョ ン 梅 雨 の 月
掬 は れ ぬ 大 き 金 魚 の 悠 々 と
薄 暗 が り の 竹 林 を ゆ く 大 暑 かな
清 流 の 音 を 足 裏 の 簞
焼 き 鮎 に た で 酔 ほ ど け る 川^ゆ床^か料 理
木 洩 れ 日 の 揺 る る 座 敷 に 鱧 食 す
這 ふ や う に 大 む ら さ き の 飛 び ゆ け り

芋 梶 手 お 古 一 玉
 の の 花 と 代 グ 虫
 露 葉 火 な 蓮 ラ の
 硯 に の り 花 ム と
 の さ 光 に の ほ は
 海 ら に ま ど も ひ
 へ り 映 ゆ ろ な き か
 流 と 記 る 面 一 尺 小 昼 糸 蜻 蛉
 し す 女 輪 京 の 町 かな
 け 文 字

貫井照子

大 七 下 山 初 つ 祖
 雨 夕 刈 百 蟬 や 母
 の 竹 り 合 に や 住
 止 潜 を や か ま
 み り 終 下 草 初 部
 た 妻 へ し 刈 敬^{そはだ} 夏 屋
 る へ の 山 り の 日 返 の 縁
 朝 こ 裾 の 鎌 暮 ず 先
 蜻 け 蟬 し そ 蜻 蛉
 蛉 し し ぐ 玉
 飛 買 ぐ れ す 子
 ぶ ふ れ す

中村則夫

萩原 溪人

爺が岳の雪形たしか汗拭ふ
梅雨茸や古き凶鑑に目を通す
つつがなく満一歳の夏祝ふ
ハンドルを握り蛸の名所へと
梅雨晴れ間久し振りなるウォーキング

橋本 美代

百年を過ぎし人形山車に乗り
蓬髪のお眼剥きたる山車人形
居酒屋の盛り塩流す雷雨かな
熱帯夜の作業車帰る気配せり
睡蓮の葉裏くすぐる魚の影
能登半島二句

夏木立みな内浦に傾けり
大花火能登の海面に咲にけり

◇11～12月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
11月	3日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	大島英昭
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	大島英昭
	15日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	19日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	22日(土)	AM10:00	楽天会	戸田市中央公民館	廣瀬雅男
	23日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	28日(金)	PM3:00	WEP大崎教室	WEP俳句教室	WEP編集室
12月	1日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	大島英昭
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	大島英昭
	17日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	百回記念会場未定	藤井美晴
	21日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	神楽坂周辺	丑久保 勲
	26日(金)	PM3:00	WEP大崎教室	WEP俳句教室	WEP編集室
	27日(土)	AM10:00	楽天会	戸田市中央公民館	廣瀬雅男
	28日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) 12月21日(日)の吟行。

集合は10時。JR中央線市ヶ谷駅改札口(地下鉄への乗換え口ではありません)。

吟行地：市谷亀ヶ岡八幡宮から神楽坂へ抜ける。

句会場：滝野川会館(飯田橋から地下鉄南北線で西が原へ)。

◎ 連絡先

瀬島 孟	☎ 048-862-2757	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
大島英昭	☎ 048-592-5041	NHK文化センター	☎ 048-600-0091
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	浦和コミセン	☎ 048-887-6565
丑久保勲	☎ 048-853-3856	WEP俳句教室	WEP編集室へ
藤井美晴	☎ 0422-55-2733	クラブジャパン	☎ 03-3432-1500